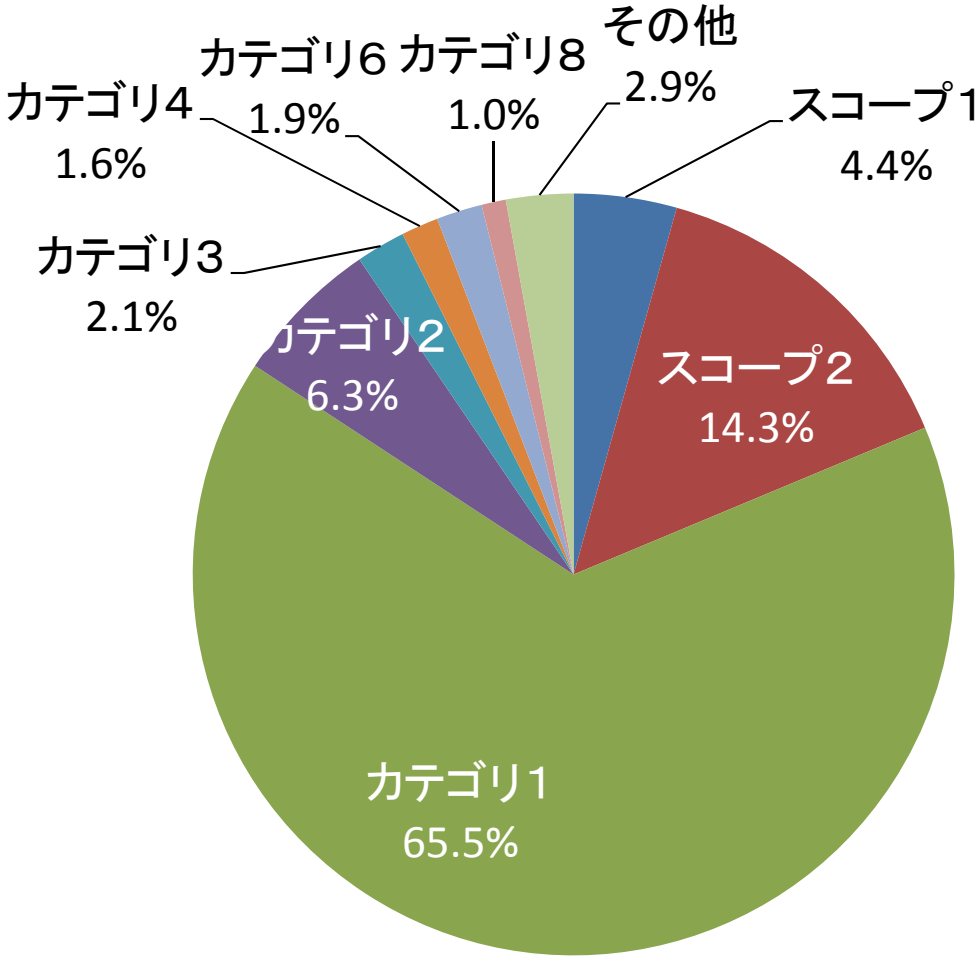


# 大鵬薬品工業株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"><li>● 業種：製造業</li><li>● 事業概要：医薬品、医薬部外品、医療機器、食料品、日用品雑貨などの製造、販売及び輸出入</li><li>● 事業規模：売上 1,304億円（2017年12月期） 従業員数 2,410名(2017年12月31日現在)</li></ul>
2.削減目標案	<p>&lt;Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; 目標：2030年に2017年比で30%削減 ※ユーティリティ設備の更新、省エネ推進や運用管理の見直し、再エネの導入などを進める。</p> <p>&lt;Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み&gt; サプライヤーやロジスティックスに対してGHGの削減についてSBTに則った目標設定を依頼する。</p>

# 大鵬薬品工業株式会社

項目	内容																					
3.基準年のGHGインベントリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Scope 1・2・3の排出量の状況</li> </ul>																					
	 <table border="1"> <caption>GHG Emissions Breakdown by Category and Scope</caption> <thead> <tr> <th>Category/Scope</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カテゴリ1</td> <td>65.5%</td> </tr> <tr> <td>スコープ2</td> <td>14.3%</td> </tr> <tr> <td>スコープ1</td> <td>4.4%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ2</td> <td>6.3%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ3</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ4</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ6</td> <td>1.9%</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ8</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2.9%</td> </tr> </tbody> </table>		Category/Scope	Percentage	カテゴリ1	65.5%	スコープ2	14.3%	スコープ1	4.4%	カテゴリ2	6.3%	カテゴリ3	2.1%	カテゴリ4	1.6%	カテゴリ6	1.9%	カテゴリ8	1.0%	その他	2.9%
	Category/Scope	Percentage																				
カテゴリ1	65.5%																					
スコープ2	14.3%																					
スコープ1	4.4%																					
カテゴリ2	6.3%																					
カテゴリ3	2.1%																					
カテゴリ4	1.6%																					
カテゴリ6	1.9%																					
カテゴリ8	1.0%																					
その他	2.9%																					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● SCOPE1 : 11,031[tCO2]</li> <li>● SCOPE2 : 36,258[tCO2]</li> <li>● SCOPE3 : 205,567[tCO2] 目標の対象セクター</li> </ul>																						

# 大鵬薬品工業株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 将来的に原材料調達に重大な変化が生じる可能性があり、対策の遅れによって競争力が低下することが懸念される。</li> <li>● 当社は上場持株会社傘下の事業会社であるため、対策に取り組むことにより、持株会社に対するCDPやDJSI等の外部企業評価が向上することが期待される。その結果、ESG投資を呼び込み企業価値の向上につながる。</li> <li>● 省エネ活動の促進や、安価な再エネの導入によって、エネルギーコストの削減が実現できれば、生産や調達のコスト削減につながる可能性がある。</li> </ul>
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社の経営の中で気候変動のリスクと機会を位置づけるため、中長期CO2削減目標の策定を計画。この目標が2℃目標の水準に整合すると表明できるように、SBTの認定を受けることを目指している。</li> <li>● SBT取得により、顧客や投資家からの削減要請に応え、企業価値の向上を期待している。</li> </ul>

# 大鵬薬品工業株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ内の事業会社の環境担当で検討し、目標案を持株会社の取締役会にて承認。その後、自社の取締役会で承認し、関連する各部門に展開した。自社内においては環境委員会で温暖化のリスクと機会を検討した。</li> <li>● 社内の展開として、全従業員を対象としたe-learningを実施し、全従業員で、2℃目標に整合した長期目標達成の必要性を共有できた。</li> <li>● また、持株会社からの強力なトップダウンで進めることにより、削減目標について積極的に取り組む体制が整った。</li> </ul>
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年々事業規模が拡大しているなかでどのように温室効果ガス排出をデカップリングさせていくかが課題である。</li> <li>● 再生可能エネルギーの導入においては、経済的合理性を確保しながら導入するための検討が必要である。</li> </ul>